

コミュニティコミュニケーションを築く ～出会いと学びと実践と（防災減災をとおして）～

○市民フォーラムおおさか実行委員会 岡田 覚
市民フォーラムおおさか実行委員会 林 久善

1. 活動方針・目的

市民フォーラムおおさかでは、現在、私たちが暮らしている地域“コミュニティ”のこれからを考えていくために、身近な地域の中でフォーラムを開くことで、多くの方に学びや気づきの機会づくりを目指しています。

2. 活動内容

今年度は、昨年度より引き続き「防災・減災」を重点テーマに、大阪市内各所でこのテーマにまつわるフォーラムを実施し、私たちが住む地域を基盤とした「コミュニティコミュニケーション」を目指します。フォーラムの内容は、NPO団体や市民活動団体など様々な活動をしている実行委員が、福祉、環境、健康、芸術など幅広いジャンルのフォーラムを展開しています。

3. 他の活動団体の参考となる事例

これまで、市民活動団体やボランティア団体、NPO、社団法人、労働組合、社会福祉協議会、行政など、様々なセクターが実行委員会に参画し、「コミュニティコミュニケーション」を築くための取り組みを進めてきました。2010年度からは「防災・減災」を重点テーマに掲げました。当初は「コミュニティコミュニケーション」との関係性にしっくりしない感じを持つ者もいましたが、具体的な実践とともに2つのテーマの繋がりを実感してきたところです。そこに、東日本大震災が起こり、その重要性を再認識することとなりました。

4. 今後の課題等

東北大震災支援のボランティアバス参加者との連携など、取り組みごとに多様なメンバーとの連携を図ることは出来ているのですが、実行委員会にコアに関わるメンバーが減少しています。それぞれのセクターが各組織自身の取り組みが繁忙になっていくなかで、それでいて緩やかに連携を図り、必要な際にはこぞって動ける組織を運営するコツについて意見交換を行いたいと思います。

コミュニティ コミュニケーション を築く

～ 出会いと学びと実践と(防災減災をとおして)～

第7回 関西元気な地域づくり発表会
2012年2月23日(木)

市民フォーラムおおさか実行委員会 岡田 覚

市民フォーラムおおさかとは？

- **総合テーマ**
 - これからのコミュニティ・コミュニケーションを考える
 - **2010年～2012年共通テーマ**
 - **コミュニティ・コミュニケーションを築く～出会いと学びと実践と“防災・減災を通して”～**
- 私たちが暮らしている地域“**コミュニティ**”のこれからを考えていくために、身近な地域の中でフォーラムを開くことで、多くの方に学びや気づきの機会づくりを目指します。
- 昨年度より「**防災・減災**」を重点テーマに、大阪市内各所でこのテーマにまつわるフォーラムを実施し、私たちが住む地域を基盤とした「**コミュニティ・コミュニケーション**」を目指します。
- フォーラムには、NPO・ボランティア団体や市民活動団体、労働組合、社会福祉協議会、行政など様々な活動に取り組んでいる実行委員が参画しています。また、福祉、環境、健康、芸術など幅広いジャンルのフォーラムを展開しています。

防災・減災のとりくみ

2010年から「防災・減災」をテーマに...

2010年は阪神・淡路大震災から15年目の節目でもあり、「市民一人ひとりが、防災・減災の主役に～自分を、仲間を、街を守るのはあなたです～」を3年間の目標として掲げる。被害を減らす、復興を早め、普段からの“人と人”“組織と組織”“行政と市民”など、つながりを大切に「防災・減災の啓発、調査、プログラムづくり」に向かって実践。

地震等の災害が発生し家屋等が倒壊した場合、避難所での生活が余儀なくされ、避難所自体がひとつのコミュニティとなり、様々な住民がそこで生活を送ることとなる。

緊急避難として集まった住民が、一定の空間で共同生活を送る避難所では、人間関係等を含めストレスを抱えやすい環境といえる。

市民フォーラムおおさかでは、避難所をひとつのコミュニティに見立て、そこでのコミュニケーション（コミュニティ・コミュニケーション）をスムーズに行うために、どのような課題があるか、どうすれば上手くいくか仕掛けを考えるフォーラムを企画し、実施。

オープニングイベント 「防災・避難所1泊体験フォーラム」

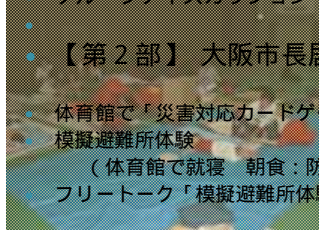
見ず知らずの人と同じ空間で寝泊まりするってどんな感じ？避難所という空間のコミュニケーションについて考えるフォーラム

- 2010年10月2日（土）～3日（日）
- 【第1部】 阿倍野区民センター 大ホール

- 講演会「避難所コミュニティとコミュニケーションについて」
- 話題提供者：鈴木かづ子さん（NPO法人「神戸の絆」語り部）
- グループディスカッション

- 【第2部】 大阪市長居障害者スポーツセンター

- 体育館で「災害対応カードゲーム『クロスロード』を体験してみよう」
- 模擬避難所体験
（体育館で就寝 朝食：防災食体験）
- フリートーク「模擬避難所体験を振り返って」



「防災・減災を考えるフォーラム」

防災・減災の視点から、日常生活や地域活動を考える

- 2011年1月15日(土)～16日(日)
- 大阪市立扇町総合高等学校
- 地震などの災害が発生した場合、地域にある学校は災害救援活動や避難所などの災害支援拠点の一つになる。
- 地域コミュニティのシンボルの一つである学校(高等学校)を拠点に、防災コミュニティについて考えるフォーラム、防災グッズ作りや体験、体育館等を使用した模擬避難所体験を実施し、「コミュニティ・コミュニケーション」を推進するフォーラムを開催。



3月11日 東日本大震災が...

今年度のとりのくみ

2012年度 オープニングイベント
「被災地での交流・体験プログラム」
2012年7月31日(日)～8月3日(水)
“被災地に大阪の元気を届けよう”

宮城県石巻市に“交流”をテーマに総勢40名で行って来ました。アロマによるハンドケア、ベビーカステラ等のお菓子提供、子どもを対象としたレクリエーション、避難所や仮設住宅に訪問し交流を図るなど、様々な活動を展開することが出来ました。活動日の2日間で延べ460名がご参加くださり、震災時のお話や震災後の状況など、想いのたけをボランティアに話してくれました。

今回の活動を活かし、大阪での防災・減災の啓発活動に取組みます。



その後のとりくみ

- 「なにわ自慢」にブース出展 (8/28中之島公園)
- 「チャリティバザール」にブース出展(9/23マイドーム大阪)
- 「津波・高潮ステーション見学会とワールドカフェ」(11/19)
- 実行委員による「被災地支援状況報告(釜石・大船渡)」(1/7)
- 「防災ワークショップ」を学生対象に実施(1/10桃山学院大)



現状

- 少子・高齢化
- マンションなどの共同住宅の増加
 - 地域コミュニティを取り巻く社会環境の変化
- ITの進展
- 人と人とのコミュニケーションの減少
 - 個人の生活様式や価値観の多様化
- 人と人のつながりの希薄化
- 家庭や地域コミュニティの機能低下

課題

- 児童や高齢者の虐待が深刻化
- 地域社会が抱える課題はより一層複雑・多様化
 - 「声かけ」「見守り」「助け合い」「支え合い」といった
 - 「自助」「共助」の機能回復が必要
- 災害時に明らかになった課題
- 平時からとりくんでいないと災害時に対応が出来ない
- 阪神淡路大震災そして東日本大震災から学び、大阪からとりくみ拡げて行くことが重要
- コミュニティには課題が山積
- 「防災・減災」というキーワードに方向を合わせるチャンス。手を組めるチャンス
- 社会全体で対処すべき「公共」の分野はこれまで以上に拡大

市民フォーラムおおさかの今後の方向性

- 3年度目として...
- 防災・減災をとりくむことが出来る人材の養成
- 市民フォーラムおおさかとして地域に防災・減災を拡げるしくみ(パッケージ)の開発
- 実行委員会のあり方